

実施日:令和6年12月23日 公表日:令和7年 1月31日

基準1 環境・体制整備

1-1 利用定員が発達障害の指導訓練室等スペースの関係で適切であるか

(1) 1-1の自己判定

☐十分満たしている ☒満たしている ☐ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由 (満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載)

活動スペースが複数あるため、適切に確保されていると感じる。

1-2 発達障害に関して専門的知見を持った職員の配置及び配置数は適切であるか

(1) 1-2 の自己判定

☐十分満たしている ☒満たしている ☐ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由 (満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載)

作業療法士・公認心理師・児童指導員の職員が配置されており、各々の知見を生かした支援が行える環境であるが、利用人数によっては個別的な支援が完全でない場合もある。

1-3 事業所の設備等において、発達障害への配慮が適切になされているか

(1) 1-3 の自己判定

☐十分満たしている ☐満たしている ☒ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由 (満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載)

部屋数が複数あることもあり、特性や活動に応じて配慮することが出来る。水道から温水が出ないことに関しては、相談が多い現状にある。感覚過敏のある児童にとっては手洗い等で支障がでる可能性も今後考えられるので、改善する必要がある。

1-4 発達障害に配慮した環境調整が行なわれているか

(1) 1-4 の自己判定

☐十分満たしている ☒満たしている ☐ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由 (満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載)

集団活動を行う部屋の他に、クールダウンができる個室を設定し、それぞれの用途に合った部屋を確保しており、基本的には配慮出来ている。利用人数によっては、確実に個室が確保できない場合もある。また、活動への導入がスムーズに出来るよう、適宜視覚教材や構造化を行っている。

【基準1の自己評価と改善・向上方法(将来計画)】

基準2 業務改善

2-1 業務改善を図るためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか

(1) 2-1の自己判定

☐十分満たしている ☒満たしている ☐ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由 (満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載)

利用児の特性や困り感に合わせて各専門的知見で話し合いながら、目標設定が出来ている。活動後の振り返りには、職員全員が参加して情報共有をしており、次回以降の改善点等も話し合うことが出来ている。

2-2 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか

(1) 2-2の自己判定

☒十分満たしている ☐満たしている ☐ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由 (満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載)

毎年アンケートを実施し、保護者様からのご意見を基に修正や改善に努めている。

2-3 「厚労省ガイドライン」による自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか

(1) 2-3の自己判定

☒十分満たしている ☐満たしている ☐ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由 (満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載)

ホームページにて公開している。

2-4 職員の資質の向上を行うために、発達障害に関する研修の機会を確保しているか

(1) 2-4の自己判定

☐十分満たしている ☒満たしている ☐ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由 (満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載)

内部研修の案内には、できる限り参加している。外部研修は、職員自ら情報収集するなど、意欲的に知識向上に努めている。

【基準2の自己評価と改善・向上方法(将来計画)】

基準3 適切な支援の提供

3-1 発達障害のアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか

(1) 3-1の自己判定

☐十分満たしている ☒満たしている ☐ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

保護者様とはその都度メールや半年毎に面談を実施している。利用児童においても、年二回程度、直接個別面談を実施しており、ニーズや課題を共有した上で支援計画を作成している。

3-2 子どもの状態を把握するために、発達障害のアセスメントツールなどを使用しているか

(1) 3-2 の自己判定

☒十分満たしている ☐満たしている ☐ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

専門的必要に応じて、感覚プロフィールや知能検査等を使用している。

3-3 発達障害の活動プログラムの立案をチームで行っているか

(1) 3-3 の自己判定

☒十分満たしている ☐満たしている ☐ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

職員全員が参加し、活動プログラムについて検討・立案を行っている。

3-4 発達障害の活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか

(1) 3-4 の自己判定

☒十分満たしている ☐満たしている ☐ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

大まかなプログラムはあらかじめ話し合い、設定しているが、固定化しないように留意している。また、利用児童を取り巻く環境やその時の状況に合わせて、必要な課題をプログラムに組み込むなどして工夫している。

3-5 平日、休日、長期休暇に応じて、発達障害の課題をきめ細やかに設定して支援しているか

(1) 3-5 の自己判定

☐十分満たしている ☒満たしている ☐ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

休日は外部活動など屋内とは違った場面設定をすることで、利用児童の様々な場면을観察し、課題の分析に繋げている。また、休暇時の宿題などには特性に合わせた学習支援を行い、それぞれのニーズに沿った支援をしている。

3-6 子どもの発達障害の状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか

(1) 3-6 の自己判定

☐十分満たしている ☐満たしている ☒ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

個々のニーズに応じて集団及び個別活動の支援計画を作成しているが、児童数や来所頻度によっては必ずしも全員に実施できていない場合もある。学習支援については個別活動の実施がよくできていると感じる。

3-7 発達障害の支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか

(1) 3-7の自己判定

☐十分満たしている ☒満たしている ☐ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

あらかじめプログラムを役割分担をしており、その日の活動リーダーを中心に流れや資料の確認をしている。

3-8 発達障害の支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをするなど、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点などの情報を共有しているか、又はその工夫がなされているか

(1) 3-8 の自己判定

☐十分満たしている ☒満たしている ☐ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

就業時刻の関係で、その日の振り返りが難しいことが多いため、翌日に振り返り時間を設けている。休みの職員には記録や口頭での共有を行い、漏れがないように務めている。

3-9 日々の発達障害児の支援に関して正しく記録をとる事を徹底し、支援の検証・改善につなげているか

(1) 3-9 の自己判定

☐十分満たしている ☐満たしている ☐ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

その活動にメインで関わっていた職員が記録入力するのではなく、別の職員に入力内容を伝えるようにすることで、ディスカッションの場を設けることができ、客観的な正しい記録に心がけている。

3-10 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービスの計画の見直しの必要性を判断しているか

(1) 3-10 の自己判定

☐十分満たしている ☐満たしている ☒ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

定期的に保護者様や利用児童と面談を通して、支援計画の適宜見直しを行っているが、利用頻度の少ない方などには徹底できていない部分もある。

3-11 「厚労省ガイドライン」の総則の「基本活動」(1(3)②ア・イ・ウ・エ・)を複数組み合わせて支援を行っているか

(1) 3-11 の自己判定

☒十分満たしている ☐満たしている ☐ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

クッキングや創作活動を通して、ソーシャルスキルの獲得や成功体験を積めるような支援を提供している。また、頻繁ではないが、地域交流のプログラムも取り入れ、社会参加や居場所づくりの機会も設けている。

【基準3の自己評価と改善・向上方法(将来計画)】

基準4 関係機関や保護者との連携

4-1 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの発達障害の状況に精通した最もふさわしい者が参画できているようにしているか

(1) 4-1の自己判定

☐十分満たしている ☐満たしている ☒ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

4-2 保護者が許容している場合において、学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか

(1) 4-2 の自己判定

☒十分満たしている ☐満たしている ☐ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

学校との連携を希望する保護者様が多く、同意を得て、教職員の方と連携を実施している。

(1) 4-3 の自己判定

☐十分満たしている ☐満たしている ☐ほぼ満たしている ☒満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

常時医療的対応が必要な児童の在籍がなく、直接連携は取れてはいないが、主治医や病院の把握はしている。保護者様を通して、情報の共有は行っている。

4-4 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか

(1) 4-4 の自己判定

☐十分満たしている ☐満たしている ☒ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

就学前の資料がある児童もいるが、実際に連携はあまり取れていない。必要に応じて、小学校や児童発達支援事業所と情報共有を行っている児童もいる。

4-5 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所へ移行する場合、それまでの発達障害の支援内容等の情報を提供するなどしているか、又はその態勢ができているか

(1) 4-5 の自己判定

☐十分満たしている ☐満たしている ☒ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

必要に応じて保護者様や関係機関との面談を通じて情報提供できるよう努めている。進学される児童も複数おり、複数の大学と連携が取れるように整えてはいるが、希望する保護者様は少ないように感じる。

4-6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか

(1) 4-6 の自己判定

☐十分満たしている ☒満たしている ☐ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

随時研修情報を確認し、積極的に研修を受けている。また、児童相談所等とは個別での連携を実施している。

4-7 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会を設けることができるか

(1) 4-7の自己判定

☐十分満たしている ☒満たしている ☐ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

頻回ではないが、イベントやボランティア活動などを通して、機会を設けている。

4-8（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか

(1) 4-8 の自己判定

☐十分満たしている ☐満たしている ☐ほぼ満たしている ☒満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

地域自立支援協議会には参加できていないため、機会を作る必要がある。

4-9 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか

(1) 4-9 の自己判定

☐十分満たしている ☐満たしている ☒ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

送迎が無い場合、直接伝えることは頻回ではないが、メールや定期的な面談を通して状況を適宜お伝えするよう務めている。

4-10 保護者の発達障害への対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング(P34・P42・P47参照)等の支援を行なっているか

(1) 4-10 の自己判定

☐十分満たしている ☐満たしている ☒ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

保護者会や勉強会の企画をし、実施している。

【基準4の自己評価と改善・向上方法(将来計画)】

基準5 保護者への説明責任等

5-1 運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか

(1) 5-1の自己判定

☒十分満たしている ☐満たしている ☐ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

契約時に書類を見せながら説明を行っている。保護者様から質問があった場合は、その都度分かりやすく説明を行っている。

5-2 保護者からの子育ての悩みなどに対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか

(1) 5-2 の自己判定

☒十分満たしている ☐満たしている ☐ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

保護者様から要請があった場合、相談内容をお聞きし、助言を行ったり、支援に反映したりしている。また、事業所内のみで解決が難しい場合は、学校等と問題解決のために連携を行っている。

5-3 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか

(1) 5-3 の自己判定

☐十分満たしている ☐満たしている ☒ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

頻繁ではないが、保護者会を行い、保護者同士で情報交換ができる場を提供している。

5-4 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、

苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか

(1) 5-4 の自己判定

☐十分満たしている ☒満たしている ☐ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

苦情があった場合には迅速に相談の場を設け、お話を聞き取っている。事業所内で周知し、苦情の解決に向けて対応方法を考え、保護者と話し合い、苦情の解決に向けて取り組んでいる。また、苦情解決委員会に報告、再度検討し、原因と解決策を話し合い、各事業所に周知している。

5-5 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報が合った場合に迅速かつ適切に対応しているか

(1) 5-5 の自己判定

☐十分満たしている ☒満たしている ☐ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

活動概要や行事予定、自然災害によるお休み等の連絡は、HUGにて行っている。

5-6 個人情報に十分注意しているか

(1) 5-6 の自己判定

☒十分満たしている ☐満たしている ☐ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

事業所外の施設の利用児のことを話し合う際は個人情報の保護について伝えた後話し合っている。また、メールで利用児について話し合う際にはアルファベットを用いるなど、特定されないように配慮を行っている。

5-7 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか

(1) 5-7の自己判定

☐十分満たしている ☐満たしている ☒ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

頻繁ではないが、定期的に面談の機会を作り、要望や困りごとについて意見を求めている。また、情報伝達の際には、それぞれの保護者や利用児が使っているアプリに情報を掲載している。

5-8 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか

(1) 5-8 の自己判定

☐十分満たしている ☐満たしている ☒ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

事業所の行事に地域住民を招待する等は行っていないが、地域でのごみ拾いやボランティア活動には参加している。

【基準5の自己評価と改善・向上方法(将来計画)】

基準6 非常時の対応

6-1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか

(1) 6-1の自己判定

☐十分満たしている ☐満たしている ☒ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

各職員がそれぞれの委員会に所属し、マニュアルを作成し保管するようにしている。確認方法が閲覧式であるため、周知徹底には至らない部分がある。

6-2 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか

(1) 6-2 の自己判定

☒十分満たしている ☐満たしている ☐ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

職員児童含め、年二回の避難訓練を実施し、内部の災害委員会などで改善点などを情報共有している。

6-3 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか

(1) 6-3 の自己判定

☐十分満たしている ☒満たしている ☐ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

虐待防止研修を実施している。

6-4 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか

(1) 6-4 の自己判定

☐十分満たしている ☒満たしている ☐ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

契約時の説明の際に了解を得るようにしている。

6-5 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示所に基づく対応がされているか

(1) 6-5 の自己判定

☐十分満たしている ☒満たしている ☐ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

事前に保護者様と情報共有をしている。また事務所内に何をどの程度摂取すると症状が出るのか、などすぐに確認できるよう一覧にしてある為、クッキングなどの際は適宜確認している。

6-6 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか

(1) 6-6 の自己判定

☒十分満たしている ☐満たしている ☐ほぼ満たしている ☐満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

その都度職員間で共有し、月毎にはヒヤリハットの集計を行っている。また法人内部の安全委員会にて、様々なケースを想定する機会を設けている。

【基準6の自己評価と改善・向上方法(将来計画)】